

# 指示詞の照応用法に関する 日中対照研究

史 隼

## ◆要旨

本稿では、日中指示詞の照応用法に見られる相違について考察する。日本語では「その」による先行詞との照応が必須かどうかによって「外延レベルでの照応」と「内包レベルでの照応」に分類される。さらに、「内包レベルでの照応」の「その」は照応の仕方に基づき、「持ち込みの「その」と「言い換えの「その」」とに分かれる。この分類をふまえて、中国語指示詞照応用法との相違を分析し、日本語の「その」に対して、中国語では量詞の種類及び量詞の有無の角度から指示詞が「内包レベルでの照応」の用法を持たないという結論が得られる。

## ◆キーワード

「その」、「这／那」、外延レベルでの照応、内包レベルでの照応、持ち込み、言い換え

## ◆ABSTRACT

This paper compares the use of demonstratives in anaphoric relations between Japanese and Chinese. We first classify anaphoric relations in Japanese into two categories: intentional anaphoric and extensional anaphoric, depending on whether the use of SONO is necessary in an anaphoric relation between a noun and its antecedent in a sentence. As the ways of using SONO vary in extensional anaphoric, we subsequently form two subcategories for extensional anaphoric: carry-in anaphoric and rephrasing anaphoric. The paper then compares the use of demonstratives in Chinese and the use of SONO in different (sub)categories, and concludes that demonstratives in Chinese cannot be used as the way that SONO is used in extensional anaphoric.

## ◆KEY WORDS

SONO, “Zhe/Na”, extensional anaphoric, intentional anaphoric, carry-in anaphoric, rephrasing anaphoric

## A Comparison of the Use of Demonstratives in Anaphoric Relations between Japanese and Chinese

SHI JUAN

## 1 はじめに

日本語の指示詞「その」、中国語の指示詞“这／那”<sup>[註1]</sup>は、ともに照応用法（ある言語表現が前後の文脈に出現する言語表現と同一の対象を指し示す関係にあることを表す用法（山梨1992））が存在する。(1)の「その森」、「这座树林」（这：こ、座：量詞（日本語の助数詞に相当）、树林：森）はいずれも先行文脈に出てきた「三四郎が入った特定の森」を表す<sup>[註2]</sup>。(2)の「その子供」、「那个孩子」（那：こ、个：量詞、孩子：子供）はいずれも先行文脈に出てきた「乞食が連れている特定の子供」を表す。

- (1) a. 横に照りつける日を半分背中に受けて、三四郎は左の森の中へはいった。その森も同じ夕日を半分背中に受けている。 (『三四郎』)  
b. 三四郎用半个身子承受着夕阳的照射，走进了左边的树林。这座树林也有一半经受着同一个太阳的光芒的考验。 (《三四郎》)
- (2) a. それから、こういうこともありましたなあ、子供連れの哀れな乞食が村へやってきたので、病気の父親を病院へ送り、その子供の面倒を見たり…… (『砂の器』)  
b. 另外还有这么一件事、有个可怜的乞丐、带着孩子到我们村里讨饭。他把患病的老乞丐送进了医院、还照料那个孩子…… (《沙器》)

次の(3a)(4a)の「その」も照応用法であるが、中国語ではこの場合「指示詞+量詞」の形に訳すことができない。

- (3) a. 人間は、昔から犬を友としていた。その犬はいろいろな病気の伝染者でもある。 (田中1981)  
b. \*人类从很久以前就把狗当成朋友。这只狗也是很多疾病的传播者。  
(直訳：人間は昔から犬と友としていた。その1匹の犬はいろいろな病気の伝染者でもある。)
- (4) a. よほどの用事がない限り、めったに上京しないが、今日はその年に

1回か2回の上京の日に当たっていた。 (『夜の声』)

- b. \*没有十分要紧的事、他决不轻易去东京。今天是那个一年一两度去东京的日子。  
(直訳：よほどの用事がない限り、めったに上京しないが、今日はあの年に1回か2回の上京の日に当たった。)

日本語の(3a)の意味を中国語で表す場合、量詞を「犬」に対して通常用いる“只”(匹)ではなく広く事物一般を指す“个”に変え、かつ“被人类当成朋友的”(人間が昔から友としていた)ということを明示的に述べなければならない。

- (5) 人类从很久以前就把狗当成朋友。这个被人类当成朋友的狗却也是很多疾病的传播者。  
(人間は昔から犬を友としていた。この昔から人間の友とされた犬はいろいろな病気の伝染者でもある。)

また、(4a)を中国語に訳す場合は指示詞を用いずに訳す。

- (6) 没有十分要紧的事、他决不轻易去东京。今天恰好是一年一两度去东京的日子。  
(よほどの用事がない限り、めったに上京しないが、今日はちょうど年に1回か2回の上京する日に当たっていた。)

本稿では、日中指示詞の照応用法に見られるこのような相違について考察する。

## 2 「その」の照応用法

### 2.1 「外延レベルの照応」と「内包レベルの照応」

日本語の照応用法の「その」は、照応の仕方によって次のように分類できる<sup>[注3]</sup>。

- I 外延レベルの照応（「その」による先行詞との照応が必須ではない）
- II 内包レベルの照応（「その」による先行詞との照応が必須）
  - a 持ち込み
  - b 言い換え<sup>[注4]</sup>

以下、具体的に説明する。

- (7) 私は犬を飼っていた。しかし、{その/φ}犬は去年死んだ。
- (8) 公園で男の人が倒れていた。{その/φ}男の人は頭から血を流していた。
- (9) やせたいと思っている男が医者に相談した。その（やせたいと思っている）太った男は医者にやせることを誓った。
- (10) ビタミンは体にいいものである。しかし、その（体にいい）ビタミンを食べ過ぎて死んでしまったケースもある。

(7)–(10)の「その」は、いずれも先行文脈を受けて用いられている照応用法の「その」である。しかし、(7)(8)と(9)(10)を比べると、前者は「その」の使用が必須ではないのに対し、後者では「その」の使用が必須である。「その」の使用が必須ではない(7)(8)の場合、「その」は「ここで言う「犬(男の人)」は先行文脈で出てきた「犬(男の人)」である」ということを明示するだけである。「犬(男の人)」が先行文脈で出てきた「犬(男の人)」と同一物であることは、「その」がなくても文脈からわかるため、「その」の使用は必須ではない。このような「その」の照応用法を、ここでは「外延レベルの照応」と呼ぶ。

一方、「その」の使用が必須である(9)(10)では、「その」は先行文脈で出てきた「男」「ビタミン」を「やせたいと思っている」「体にいい」という属性と合わせて指している。「その」の使用が必須なもの、これらの文では「やせたいと思っている」「体にいい」という属性が文脈上重要な意味を持つからである。このような「その」の照応用法を、(9)(10)のような「外延レベルの照応」と区別して「内包レベルの照応」と呼ぶ。

機能の面から言えば、「外延レベルでの照応」の「その」は「限定的用法」であり、名詞が表す事物の中から1つの個体を限定するのに使われる。また、「内包レベルの照応」の「その」は「非限定的用法」であり、指示対象に対して補足説明を加えるために使われる。(11)(12)のように指示対象が普通名詞の場合は、「外延レベルでの照応」「内包レベルの照応」の両方が可能だが、(13)(14)のように指示対象が固有名詞の場合は、指示対象が唯一物なので、「内包レベルの照応」しか成立しない。

- (11) 去年犬を拾った。その犬はかわいい。
- (12) 人間は、昔から犬を友としていた。その（=昔から人間の友であった）犬はいろいろな病気の伝染者でもある。
- (13) \*健は私の友人だ。その健は急病になった。
- (14) 健は病気知らずが自慢だった。その（=病気知らずが自慢だった）健が急病であっけなく亡くなった。（庵2007、括弧内は筆者追加）

表1 「外延レベルでの「その」「内包レベルでの「その」」の機能差

指示詞	固有名詞	普通名詞
・外延レベル(限定)	<del>その健(13)</del>	その犬(11)
・内包レベル(非限定)	その健(14)	その犬(12)

### 2.2 「持ち込み」と「言い換え」

「内包レベルでの照応」の「その」は、照応の仕方に基づき、「持ち込みの「その」と「言い換えの「その」」に分かれる。

まず、「持ち込みの「その」」について述べる。

(15) 人間は、昔から犬を友としていた。 その犬はいろいろな病気の伝染者でもある。(=3a) (田中 1981)

(16) 健は病気が知らずが自慢だった。 その健が急病であっけなく亡くなった。(=14) (庵 2007)

(15) (16) の「その」は先行文脈に出てくる「人間が昔から友としていた」「病気が知らずが自慢だった」という内容を指している。長田 (1974) は、指示詞が先行文脈の内容を指す形で名詞を限定する機能を「持ち込み」の機能と呼び、このような「その」を「持ち込み詞」と呼んでいる。長田 (1974) が挙げる (17) でも、「元文元年の秋、出羽の国秋田から米を積んで出帆した」という先行文脈の内容が「その」で持ち込まれている。

(17) 元文元年の秋、新七の船は、出羽の国秋田から米を積んで出帆した。 その船が不幸にも航海中に風波の難にあって、半難破船の姿になって、積荷の半分を流失した。 森嶋外・最後の一句・新潮文庫 (長田 1974)

田中 (1981) は「持ち込みの「その」」による指示関係を唯一指示 (内包レベルで特定の・唯一的) であるとする。(15) の「その犬」も総称指示的である場合には、「その [犬という種]」というように、内包レベルでは特定のとされる。

庵 (2007) は、「持ち込みの「その」」を、限定を受けた名詞句に先行文脈からのテキストの意味を付与するという観点から捉えている。テキスト内で名詞句が繰り返されると定情報名詞句はその文脈内で限定される。この限定を「テキストの意味」と呼び、限定を受けた名詞句には文脈からのテキストの意味の付与があると述べている。(16) の「健」は特定の人であり、さらに指示詞をつけて限定する必要はないが、「その」をつけることによって、先行文脈のテキストの意味が付与され、「病気が知らずが自慢だった健」という属性を持つ健に限定される。

「持ち込みの「その」」は、例 (15) (16) のように先行文脈と対比的な内容

を述べるために用いられる場合もあれば、先行文脈の内容にさらに情報を追加する場合に用いられる場合 (18) もある。

(18) 人間は、昔から犬を友としていた。 その犬は今でも人間を助けることが多い。

次に、「言い換えの「その」」について述べる。

(19) よほどの用事がない限り、めったに上京しないが、今日はその年に1回か2回の上京の日に当たっていた。(=4a)

例 (19) の「その」は、「めったに上京しない→用事があればたまには上京する」という言い換えによって得られた内容を指している。このような指示の仕方を「言い換え」と呼ぶ。指示内容が直接先行文脈で提示されていない点が「持ち込み」とは異なる。「その」が指す内容と後に続く内容が実質的に同じことを指している場合は、「ちょうど」という含みが生ずる。

(20) よほどの用事がない限り、めったに上京しないが (用事があればたまには上京する)、今日は (ちょうど) その (=用事があればたまには上京する) 年に1回か2回の上京の日に当たっていた。

この場合、「その」で示される「用事があれば、たまには上京する」とそれに続く「たまに年に1回か2回上京する」は先行文脈「よほどの用事のない限り、めったに上京しない」と「たまに年に1回か2回上京する日」は、「用事があれば、たまには上京する」という言い換えによって結び付けられている。

以上のことをふまえて、次節では第1節で述べた日中指示詞の照応用法に見られる相違について考察する。

### 3 中国語の指示詞の照応用法

#### 3.1 量詞および「持ち込み」「言い換え」の問題

まず、次の現象について考える。

- (21) a. 人間は、昔から犬を友としていた。その犬はいろいろな病気の伝染者でもある。
- b. \* 人类从很久以前就把狗当成朋友。这只狗也是很多疾病的传播者。  
(直訳：人間は昔から犬と友としていた。その1匹の犬はいろいろな病気の伝染者でもある。)(=3)
- (22) 人类从很久以前就把狗当成朋友。这个被人类当成朋友的狗却也是很多疾病的传播者。  
(人間は昔から犬を友としていた。この昔から人間の友とされた犬はいろいろな病気の伝染者でもある。)

第1節で述べたように、(21a)を中国語に訳す場合は、(22)のように、量詞を「犬」に対して通常用いる“只”(匹)ではなく広く事物一般を指す“个”に変え、かつ“被人类当成朋友的”(人間が昔から友としていた)のように、先行文脈の内容を明示的に述べなければならない。さらに、日本語では「その」の前後文の対比の属性によって現れる「まさか、ありえない」という「意外性」も、中国語では副詞“却・但”(しかし)、“竟然”(たった)などを使って言語化する必要がある。

まず量詞の問題について述べる。犬に対して通常用いる量詞は“只”(匹)である。“这只狗”が表すのも「この1匹の犬」という意味である。しかし、(21a)の「その犬」は第1文の「犬」と同じく「犬という物」、すなわち「犬一般」を指しており、個体としての犬を指すわけではない。そのため、“这只狗”(この1匹の犬)を用いて訳した(21b)は不自然になり、広く事物一般を指す“个”に変えて、「犬という動物」を指すという形にする必要がある。

次に、先行文脈の内容を明示的に述べなければならないことについて述べる。これはすなわち、中国語の指示詞は「持ち込み」の機能を持たないということである。次の例においても、先行文脈と具体的な照応関係を持たせるためには、“这个曾被纳粹德意志军队进攻的(波兰)”(ナチス・ドイツ軍に侵攻された(ポーランド))ということを示す必要がある。単に“这个波兰”(このポーランド)と述べただけの場合は、それ以外の属性(例えば、裕福であり、民主的であり、……)も含めた「ポーランドという国」全般を指す。

- (23) a. ことしは歴史や時代を考えさせる出来事が特に多い。日本では「昭和」が終わった。今月1日はナチス・ドイツ軍のポーランド侵攻で第2次世界大戦が始まって50周年だった。そのポーランドで、いま、民主化が進みつつある。回顧の感慨はひとときわ大きい。コール西独首相の記念演説の言葉が印象的だった。(天声人語1989.3)
- b. 今年有许多事件让我们对于历史和时代进行反思。在日本，“昭和时代”结束了。在欧洲、本月一日则是纳粹德意志的军队进攻波兰从而导致二战爆发的五十周年。而正是在这个曾被纳粹德意志军队进攻的波兰、现在民主化的热潮汹涌澎湃。回顾五十年使人感叹万分。戈尔西德首相的纪念演说给我们留下极深的印象。
- c. 今年有许多事件让我们对于历史和时代进行反思。在日本，昭和时代结束了。在欧洲、本月一日则是纳粹德意志的军队进攻波兰从而导致二战爆发的五十周年。而正是在这个波兰、现在民主化的热潮汹涌澎湃。回顾五十年使人感叹万分。戈尔西德首相的纪念演说给我们留下极深的印象。(庵・張 2007)

中国語の指示詞は「持ち込み」機能だけでなく、「言い換え」機能も持たない。(24)の「その」は「言い換え」の例であるが、先に述べたように、これを中国語に訳す場合は、指示詞を用いずに副詞“恰好”(ちょうど)で前後文をつなげる必要がある。

- (24) a. よほどの用事がない限り、めったに上京しないが、今日はその年に

1回か2回の上京の日に当たっていた。(『夜の声』)

b. \* 没有十分要紧的事, 他决不轻易去东京。今天是那个一年一两度去东京的日子。

(直訳: よほどの用事がない限り、めったに上京しないが、今日はその年に1回か2回の上京の日に当たった。)(=4)

(25) 没有十分要紧的事, 他决不轻易去东京。今天恰好是一年一两度去东京的日子。

(よほどの用事がない限り、めったに上京しないが、今日はちょうど年に1回か2回の上京する日に当たっていた。)

### 3.2 量詞なしの指示詞使用

中国語の指示詞の用法の中には、一見「持ち込み」あるいは「言い換え」に近い機能を有するものがある。それは、次のように量詞なしで指示詞を使用する場合である。

(26) 没有十分要紧的事, 他决不轻易去东京。今天恰好是那 [一年一两度去东京的日子]。

(よほどの用事がない限り、めったに上京しないが、今日はちょうど年に1回か2回の上京する日に当たっていた。)

(27) 下雨时, 我睡在树下, 我身体露出的部分爬满了被水冲来的山蛭。我也吃了那 [吸我的血、扁平的、草绿色的、可爱的小东西]。

(雨が降り、木の下に寝る私の体の露出した部分は、水に流されて来た山蛭によって蔽われた。その私自身の血を吸った、頭の平たい、草色の可愛い奴を、私は食べてやった。)

これらは、“那座山—那山”(あの山)、“那个[阳光明媚的]日子—那[阳光明媚的]日子”(あの日差し明媚な日)のように量詞が省略されたものではない。実際、「指示詞+量詞」の形になると不自然である。

(28) \* 没有十分要紧的事, 他决不轻易去东京。今天恰好是那个 [一年一两度

去东京的日子]。

(29) ? 下雨时, 我睡在树下, 我身体露出的部分爬满了被水冲来的山蛭。我也吃了那些吸我的血、扁平的、草绿色的、可爱的小东西。

「指示詞+量詞」の形を用いるには、次のように先行文脈の語句、あるいは旧情報である部分語句が指示対象となっていなければならない。

(30) 一年一两度会去东京购物。今天恰好是那个一年一两度去东京的日子。

(年に1回か2回買い物に上京するが、今日はちょうど年に1回か2回の上京する日に当たっていた。)

(31) 下雨时, 我睡在树下, 我身体露出的部分爬满了被水冲来的山蛭。我也吃了那些身体露出的部分爬满的小东西。

(雨が降り、木の下に寝る私の体の露出した部分は、水に流されて来た山蛭によって蔽われた。その体の露出した部分の奴を、私は食べてやった。)

量詞を用いない(30)(31)のような指示詞の用法は、方梅(2002)の言う「話題標記」の用法に類似している。「話題標記」の指示詞は初めて文に現れた名詞あるいは短文を指す。一般に固有名詞と定性の高い名詞以外の新情報に指示詞をつけることはできないが、新情報に指示詞を付けることによって既知情報や固有名詞に近いものとして扱い、新情報を既知の情報に、また“不定”の成分を“定”に転換することができる。

(32) 康六 : 宫里当差的人家谁要个乡下丫头?

(行宮で勤めている方は田舎出身の女を妻にするわけないでしょう。)

刘麻子: 这不你女儿命好吗? (だから、お嬢様の運がいいって!)

康六 : 谁呀? (相手は誰?)

刘麻子: 大太监、庞总管! 你也听说过庞总管吧? 伺候着太后、红的不得了哇! 人家家里头、打醋的瓶子都是玛瑙的!

(龐大総管太監! 聞いたことがあるでしょう? 皇太后様に仕えていて、えこ最真されているよ。家のお酔入れのピンさえでも瑪瑙素材なのだよ!)

康六：[要孩子给太监做老婆]、我怎么对得起女儿啊？  
 (子供を宦官の妻にさせるなんて、申し訳が立たないだろう。)

(方梅2002)

方梅(2002)の説明によれば、(32)の前文では、「1人の女の子を宦官の奥さんにすること」が言及されているが、“要孩子给太监做老婆”(子供を宦官の妻にさせるなんて)という短文は前文に現れていない新情報であるため、文頭に「話題標記」の“这”を付して、旧情報に転換させることによって前後文との一貫性を保っている。

(29)(30)の場合も、“吸我的血、扁平的、草绿色的、可爱的小东西”、“一年一两度去东京的日子”は前文では言及されていない新情報であるが、指示詞“那”をつけて旧情報であるかのように述べることにより、副詞“恰好”(ちょうど)とあわせて前後文の緊密性がより保たれると考えられる。これは、「指示詞が本来の物指しの機能が弱まり、文章の中で新たな機能を持つ」に至った「ひ弱な指示詞」<sup>[注5]</sup>の一種であり、日本語の「持ち込み」および「言い換え」の「その」が果たしている機能とは違う。

## 4 まとめ

本稿では、日中指示詞の照応用法に見られる相違について考察した。「その」の照応用法には「外延レベルでの照応」と「内包レベルでの照応(持ち込み、言い換え)」があるが、中国語の指示詞は「内包レベルでの照応」の用法を持たない。

まとめると次のようになる。

表2 照応用法の「その」と中国語指示詞の機能差

日本語指示詞「その」の機能		中国語指示詞の機能	
・外延レベルでの照応		あり	
・内包レベルでの照応	持ち込み	なし	・類型を表す指示詞を使用する。 ・持ち込まれた内容を明示する。
	言い換え	なし	・指示詞不使用。 ・話題表記の指示詞を使用する。

このように、同じく指示詞と呼ばれるものでも日本語と中国語とでは機能差が見られる。このことは、日本語教育において日本語教師もしくは中国語母語学習者の注意すべきところである。

〈一橋大学大学院生〉

### 注

[注1] …… 照応用法の「その」は多くの場合、中国語の指示詞“这/那”のいずれとも対応するが、本稿の議論の範囲内では、“这/那”の使用による空間的・心理的な遠近による相違は問題にならない。

[注2] …… 中国語の指示詞は、「指示詞+量詞+名詞句」という形で用いられる場合と、“那山”(あの山)のように「指示詞+名詞句」という形で用いられる場合がある。量詞があるかどうかによって文の意味が変わる場合もあるが、本論ではその違いは問題としない。

[注3] …… 本稿では「その」が必須ではない「外延レベルでの照応」と必須である「内包レベルでの照応」のいずれの場合も「持ち込み」はあると考えている。これは長田(1974)で言う「持ち込み」の意味と同じである。ただし、本稿で使っている「持ち込み」という語は「内包レベルでの照応」の中の1つとして分類されているものである。

[注4] …… 本稿では、「その」の指示対象は先行詞の言い換えの場合を「言い換えの「その」と呼んでいるが、庵(2007)では「その」には「言い換え」の用法はないとしている。実際、本稿で「言い換え」とされているものは庵(2007)の「言い換え」の定義とは異なる。

庵(2007)の「言い換え」:

先行詞をその上位概念で言い換えた「上位型の言い換え」①と先行詞をその属性で言い換えた「内包型の言い換え」②である。

①エリザベス・テラーがまた結婚した。\*その女優が結婚するのはこれで7回目だそうだ。

②自分が苦しい時は相手も苦しいものだ。この辺からプロでも二転三転することはよくある。が、羽生が勝つとだれもが思っていた。時代が、\*その21歳の天才を呼んでいるようだ。

[注5] …… 「ひ弱な指示詞」は指示詞“这/那”から生じた「文法化」であると見られている。「文法化」について、张伯江・方梅(2001)『汉语功能语法研究』では、“词汇意义的衰减，是我们传统所说的虚化；同时也带来了新的语法范畴和语法成分的产生。”(語彙意味の弱まりはわれわれが従来言っている「虚化(弱まり)」を指しており、同時にその語彙に新しい文法範疇と文法成分をもたらした。)と述べている。中国語指示詞は比較的具体的な意義を持った名詞・動詞・形容詞などと違って、指示対象が文章の中でしか確認できない機

能語であるが、典型的な介詞・接続詞・語気詞などうわべだけで実のない言葉とも異なる。したがって、中国語指示詞は比較的具体的な意義とうわべだけで実のない言葉の間に介して、最も変化しやすいものである。これは指示詞“这／那”から「ひ弱な指示詞“这／那”」に「文法化」が生じた原因ではないかと考えられる。

例えば、指示詞は本来ダイクシス性を持つが、(i) (ii) の指示詞“这”“那”は特に具体的な指示対象を何も指していない。

(i) 我这舞跳得也够灰心的。(张伯江・方梅2001)

(私の気持ちがダンスをする事に挫けた。)

この文は、長い間ダンスを練習していたが、なかなかうまくできなくて、話者がダンスに落胆しているというニュアンスを表している。

(ii) 你那孙子装的也够可怜的。(张伯江・方梅2001)

(お前は十分哀れそうにとぼけているね。)

この文は、相手のとぼけていることをわざとかわいそうだと言いながら、実はさげすんでいるニュアンスを表している。

このような本来のダイクシスを失ってしまった指示詞は「ひ弱な指示詞」となる。

---

## 参考文献

- 庵功雄 (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』 くろしお出版
- 庵功雄・張麟声 (2007) 「日本語と中国語の「冠詞」に関する覚書」『一橋大学留学生センター紀要』10, pp.29-36. 一橋大学留学生センター
- 長田久男 (1974) 「連文の諸相 (1) —コ・ソ・ア系統の指示詞による意味の持ち込みという現象—」『岡山大学教育学部研究集録』38, pp.27-52. 岡山大学教育学部
- 田中望 (1981) 「「コソア」をめぐる諸問題」『日本語の指示詞』8, pp.1-49. 国立国語研究所
- 山梨正明 (1992) 『推論と照応』くろしお出版
- 方梅 (2002) 「指示詞“这”和“那”在北京话中的语法化」『中国语文』4, pp.343-356.
- 张伯江・方梅 (2001) 『汉语功能语法研究』江西教育出版社

## 【データ出典】

- 夏目漱石 (1951) 『三四郎』(原作) 角川書店／吴树文訳 (1983) 《三四郎》上海译文出版社
- 松本清張 (1975) 『砂の器』(原作) 「砂の器」シナリオ／叶渭渠訳 (1979) 《沙器》外国文学出版社
- 井上靖 (1980) 『夜の声』(原作) 新潮文庫／文洁若訳 (1980) 《夜声》上海译文出版社